

第36回

国際福祉機器展 H.C.R. 2009

国際シンポジウム「女性の就労と育児」、福祉機器最前線スタート

2009(平成21)年9月29日～10月1日

国際展示場「東京ビッグサイト」(有明)

- 世界的金融危機の影響が残るなか、日本経済はデフレ下の状況が続いたことで、企業は厳しい経営環境にあり、出展が500社を下回り、急ぎよ、会場を計5ホールに縮小した
- 特別展示「福祉機器開発最前線」をスタート。義手・義足、車いす、コミュニケーション機器の研究・開発中、新商品を展示した。また、職員配置の削減などの影響により介護現場で課題となりはじめた状況について新企画「腰痛予防と福祉機器」を実施
- 国際シンポジウム「ヨーロッパ各国の女性の職域進出と育児環境」をテーマに、スウェーデンの専門家を招聘し、EUにおける少子化対策、女性の労働状況と支援策を紹介



[第36回 ポスター]

主催 全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会
 来場者数 107,911人
 出展社数 491社：海外13か国1地域53社、国内438社
 ◆東展示場 2～6ホール



福祉機器開発最前線



腰痛予防と福祉機器

- ▶ 2007年 アメリカのサブプライムローン問題が浮上
- ▶ 国連「障害者の権利条約」署名

国際シンポジウム

ヨーロッパの女性の就労と育児環境

EUにおける女性の労働市場への進出の割合は当時から日本に比べて高く、少子化対策の拡充によりワークライフ・バランスを推進して、出生率を向上させる取り組みを進めていた。一方、わが国の対応は遅れていたため、先例に学ぶことを目的としたシンポジウムを開催

シンポジスト

リビア・オラー 氏

スウェーデン・ストックホルム大学准教授

チューター

榊原智子 氏

読売新聞東京本社生活情報部記者



リビア・オラー 氏



榊原智子 氏

IT 講座の先駆け「家庭にある機器を使ったコミュニケーション」

家庭にある情報機器を効果的に活用すれば障害のある人のコミュニケーションの可能性が一層広がるとして、その利用方法などを紹介し、同講座は第40回まで継続、その後、「アルテク講座」へと発展し、現在の「身近なICT活用講座」へと至る

◎プログラム

● 携帯電話と障害

～日常生活や就労へ簡単に利用できる機能やサービスの数々

● 障害のある人のパソコン利用

～ Windows パソコンの中に隠された障害対応機能や便利なアプリケーション



中邑賢龍 氏

東京大学先端科学技術研究センター教授

介護現場向けの講座「腰痛予防と福祉機器」

老人ホームや障害者施設のスタッフにとって腰痛は大きな課題であり、福祉機器を適切に使った予防対策と介護の実際などを紹介

● ア. ベッドと移乗

● イ. 浴室モデルと移乗

● ウ. トイレと移乗

市川 洸 氏

福祉技術研究所株式会社代表取締役

古田恒輔 氏

神戸学院大学総合リハビリテーション学部教授、日本リハビリテーション工学協会移乗機器 SIG 代表

(実施協力/JASPA リフト関連企業連絡会)